

【森林×公教育】 学校と共に創る 森林環境教育の道筋

ホールアース自然学校 福島校
(NPO法人ホールアース研究所 福島事務所)
拠点責任者：和田 祐樹

【ホールアース自然学校とは】

- ・創立:1982年 ⇒ ディズニーランド、ファミコンの台頭が1983年
- ・スタッフ数: 約40人 (スタッフ全員が有給スタッフ)
- ・拠点数:5県8拠点 (福島・新潟・静岡・岐阜・沖縄)

【福島】

○東日本大震災 ⇒ 震災復興活動を開始。

・福島校:2012年秋 : 設立準備室設立。

2013年 : 福島校開校。

～

2019年 : 福島大学と連携協定を締結。



【福島校のミッション】

最高の体験教育プログラムを実践し、
環境に与える不必要な悪影響を最小限に抑える。
喜びと発見に満ちた共生・循環する暮らしを目指し、
数世代先に新たな価値を拓く、人と環境を育む。



【自己紹介】



◆福島県西白河郡矢吹町出身
福島大学教育学部、卒業。

◆大学時代(2004.3～2009.3)
・順風満帆だった人間関係での挫折
・2カ月間、島民5人の半無人島生活
⇒**生き抜く術の挫折**から**自然学校**へ

◆ホールアース自然学校へ(2009.4～)
・岡山県青少年教育施設勤務
・新スタッフ教務&リゾートホテル連携
・東日本大震災復興支援

◆ホールアース福島校設立(2013.4～)
・福島の子どもと自然をつなぐ

・福島県森林環境教育検討委員
・郡山市社会教育委員、地域Co
・湖南小・中・高校運営協議会協議員

自然

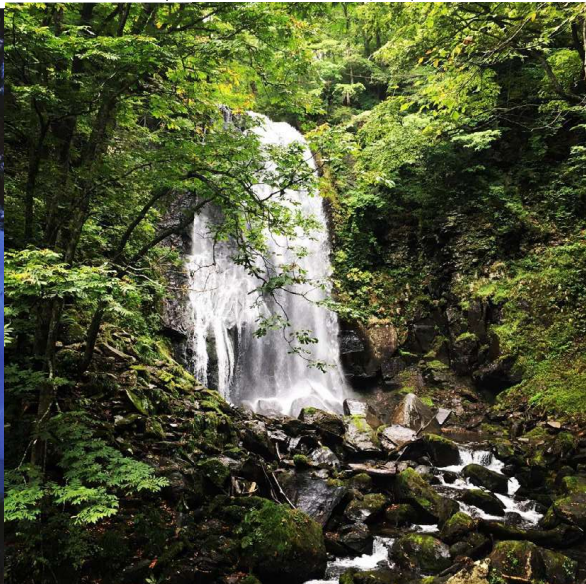
◆ふくしま子どもネイチャリングキャンプ◆

福島大学生がゼロから企画・運営し、子ども達と3泊4日駆け抜ける自然度の高いキャンプ企画。



◆ふくしまの自然で、自分の内なる声に出会う旅◆

福島 naturally や文化・人に出会うことで、自身の内なる声に出会う、再会PG。



他者

◆学生アクティブラーダー養成講座（年間）◆

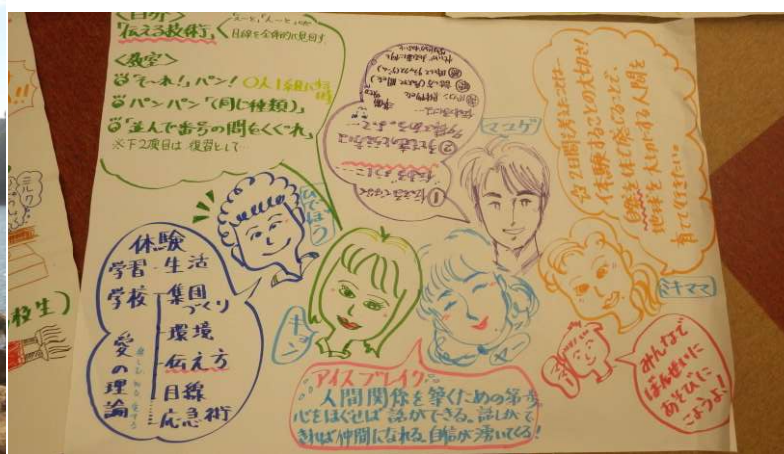
延べ参加者数 280人（2013年5月～2019年3月） 学生・若手社会人の養成講座

※現在休止中



◆地域・団体や教育現場でのファシリテーション◆

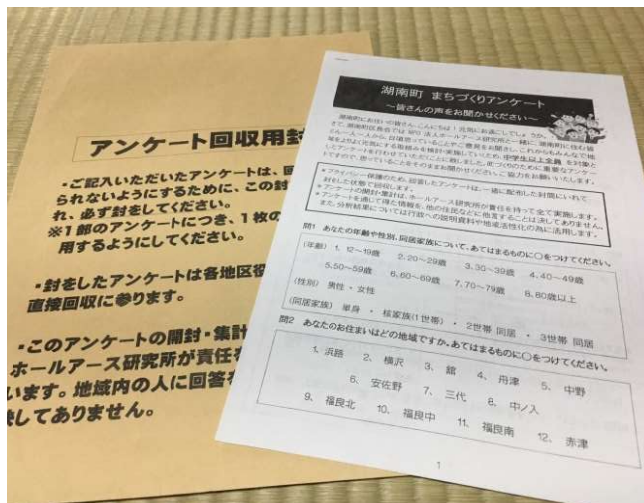
県内インターン生中間研修、農業高校経営マーケティング授業、社会教育団体研修etc



地域・社会

◆湖南まちづくりアンケートの実施◆

湖南町に住む中学生以上全員を対象に
各世代ごとの課題意識・ニーズはどこにあるのかを調査。



◆福島県立湖南高等学校「地域ミライ探究」+町づくり◆

教員も生徒も地域もみんな「ゼロからカレーを作る」難題に挑戦（2020）。



【福島県の森林政策】

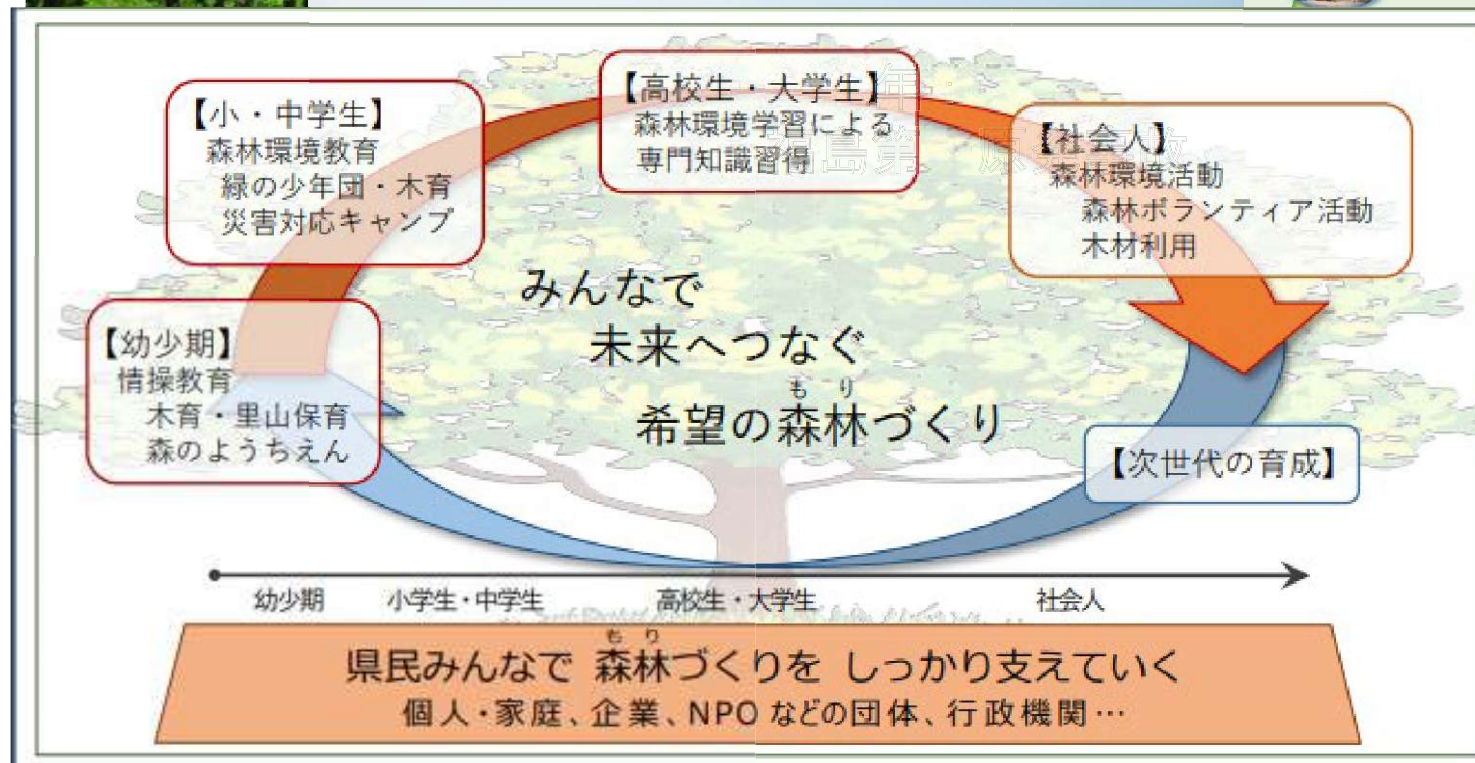
2005年：「森林文化のくに・ふくしま県民憲章」



2006年：森林環境税(個人・法人)を導入。



2011年：東日本大震災



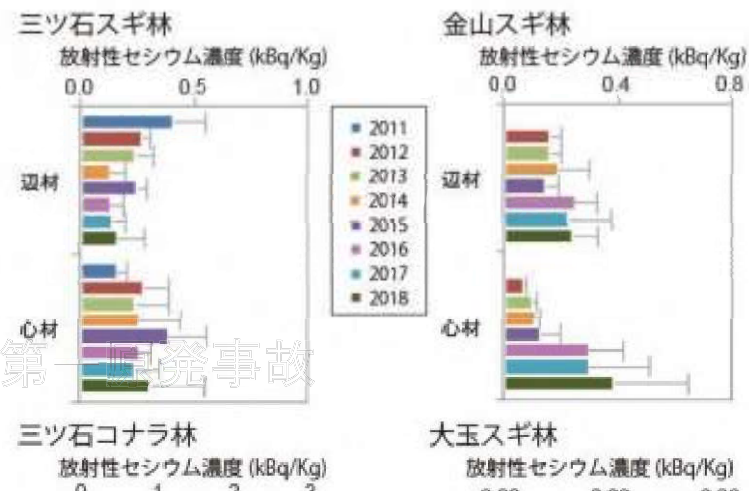
2013年：森林づくり活動推進についての提言

【福島県の森林】

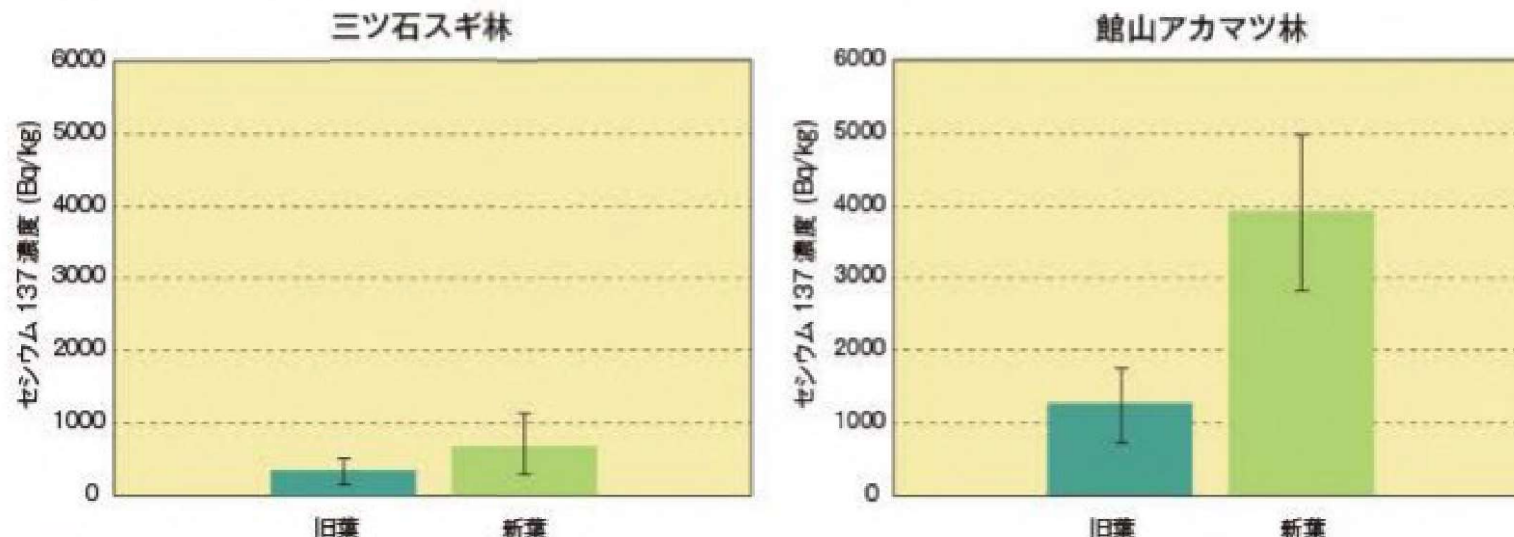


の
第4
資

福島第一原発事故



林整備も



〔図 3-13〕 2018 年の三ツ石スギ林と館山アカマツ林の新葉と旧葉のセシウム 137 濃度比較
各調査地の試料(三ツ石スギ: n=7; 館山アカマツ: n=8)における平均値(標準偏差)

資料: 林野庁「平成 30 年度森林内における放射性物質実態把握調査事業報告書」の調査結果より

林野庁

世代別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	子育て世代の心配が大きい
	38.5%	47.1%	55.1%	60.1%	57.7%	52.2%	47.9%	

〔図 3-15〕 三ツ石スギ林、金山スギ林、三ツ石コナラ林、大玉スギ林、三ツ石ヒノキ林、館山アカマツ林における木材内部の放射性セシウム濃度 (kBq/Kg) の変化

資料: 林野庁 HP「平成 30 年度森林内の放射性物質の分布状況調査結果について」

【福島県の教育と森林】



福島県では2011年から課題研究をはじめ、現在では全公立小中学校で、各学年2コマずつの放射線教育カリキュラムを導入している。

2020年10月3日

福島県森林の未来を考える懇談会から「森林づくりの提言」。
⇒「継続的な森林環境教育・学習・活動の推進」の実現に向け、「森林・林業を多面的・総合的に捉え、学校教育の中で子どもたちに分かりやすく説明できる副読本などの教材の提供を積極的に検討する必要がある」とされた。

2020年～：現在進行形

福島県

森林環境教育支援調査発信事業

- ・どんな教材がいいのか
- ・どんな外部人材がいいのか
- ・どんな仕組みならいいのか・・・

【全体計画】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度～
森林環境教育資料の作成・提供			
検討委員会による方針作成			
編集委員会による案(原稿)作成			
教育資料等の印刷・配布			
指導者の育成(外部講師研修)			
指導者研修の実施			
指導者の派遣			
森林環境教育実施(教育機関と連携)			

【福島県のこれまでの教育と森林】

「ふくしま森まっぷ」とは…
福島県が保有する地理情報の内、県内の森林・林業に関する事項をもっと良く知ってもらうための情報を地理情報としてインターネットを介したWebブラウザ上で皆様に提供する福島県が運営するサイトです。

お知らせ

- 2018-11-12
磐城森林計画区の森林情報、山地災害危険地区の位置、及び保安林の位置を更新しました。
- 2018-6-29
会津森林計画区の森林情報、山地災害危険地区の位置、及び保安林の位置を更新しました。
- 2016-11-22
奥久慈森林計画区の森林情報、山地災害危険地区の位置、及び保安林の位置を更新しました。

掲載マップ一覧

ご覧になりたい情報マップの地図検索をクリックすると、検索トップページに遷移します。

森林情報

民有林、保安林、林道、山地災害危険地区等の情報です。

地図検索

森林環境税での取り組み

森林環境税を活用して整備した施設等を紹介しています。

地図検索

巨樹・巨木マップ

巨樹・巨木情報です。

地図検索

森林における放射性物質関連資料等について

福島県内での森林環境放射性物質モニタリング調査結果等を掲載しています。

森林計画課ホームページ

スマートフォンサイトはこちら

QRコードをお読みください。
(一部未対応の機種があります)

ふくしまの森林文化

森林文化調査カード情報です。

地図検索

第69回全国植樹祭

県内各地の植樹活動等を紹介しています。

地図検索

ふくしま森マップ



森林文化記録映像「森の暮らし」

ふくしまの自然環境を守る

先人の育ててきた自然環境

裏磐梯の自然環境に学ぶ（学習指導案）

授業実践例 第5学年 総合学習：教科発展型（5年社会科、6年社会科）

1 単元名 ふくしまの環境を守る

2 単元のねらい

- ・裏磐梯の自然環境を通して、自然環境の恵みを体感することができる。
- ・観光地として人が訪れる程の自然環境を作り育ててきた先人の功績について知り、人間にとって自然は不可欠なものであることを理解することができる。

3 指導計画・学習内容（総時数6時間）

次時	学習内容	時間	指導上の留意点
1	めあてを知る	5	・県より配付されている「環境副読本」を活用すること。身近な環境について学習するという意識を高めさせたい。
2	副読本を参考に、ふくしまの環境について話し合う。	20	
3	スライドを見ながら、森林資源の有用性や環境との関わり、森林環境がもたらしてくれる美しさや恵みについて知識を豊かにする。	40	・自作資料を活用する。 ・木材資源や水環境の関わり、生物等を紹介することで、森林環境を大きく捉えさせ、森林の大切さを理解させたい。
4	見学学習のしおりをもとに裏磐梯散策の計画を理解する。 ・散策コース（五色沼トレッキング） ・植林による森林の再生 ・遠藤 現夢の功績	20	・「裏磐梯緑化の父」とよばれる遠藤現夢の功績についての具体的な数値や逸話を紹介することで、学習の目的を強く意識させたい。
5	本時の学習を振り返り、学習感想を発表する。	5	

II 3 裏磐梯ビジターセンターからスタートし、鹿沙門沼を経由する五色沼トレッキングを行う。4. 檀原湖を帰着点とする。安全には十分に留意させる。

5 裏磐梯山の噴火によって湖沼群ができたこと。

6 遠藤 現夢を中心とした先人達が、裏磐梯の森林の再生に尽力したこと。（遠藤 現夢の墓碑）

檀原湖では、遊覧船から磐梯山や周囲の森林環境を観察する。また、檀原湖は、磐梯山の噴火で生じた堰止湖であるが、森林環境と相まって豊かな自然森林環境の一助にもなっていることを理解する。

森林環境学習の指導案事例集

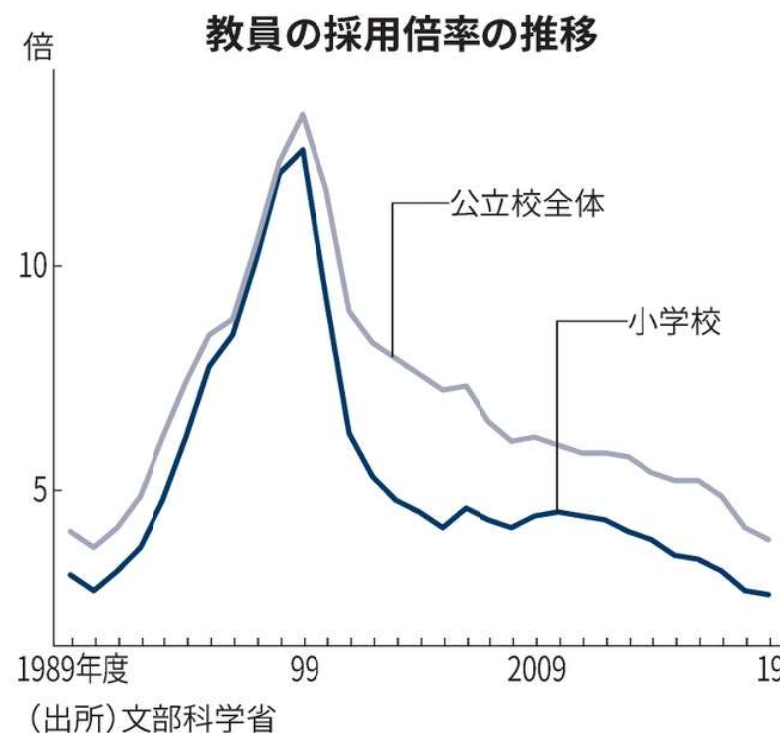
【学校現場と連携するために知っておきたいこと】

◆たくさんの〇〇教育



◆時代に沿った新学習指導要領の導入

- 小学校3・4年で「外国語活動」
- 小学校5・6年で教科としての「外国語」
- 小学校での「プログラミング教育」が必修化
- 観察・実験などによる科学的に探究する学習活動
- データを分析して課題を解決するための統計教育
- 小・中「特別の教科 道徳」が新設
- その他「起業に関する教育」「金融教育」「防災・安全教育」「国土に関する教育」等

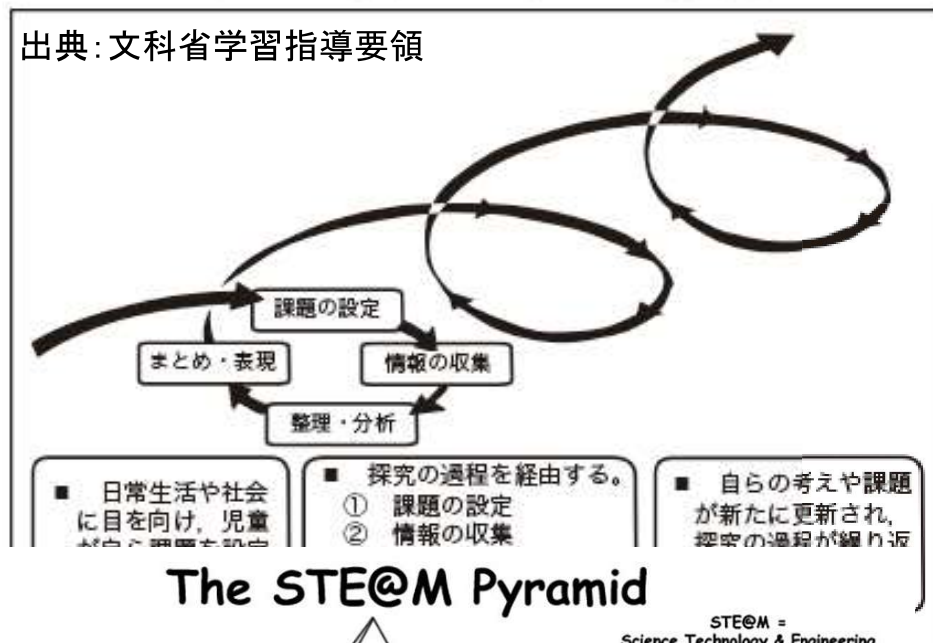


◆採用倍率の低下

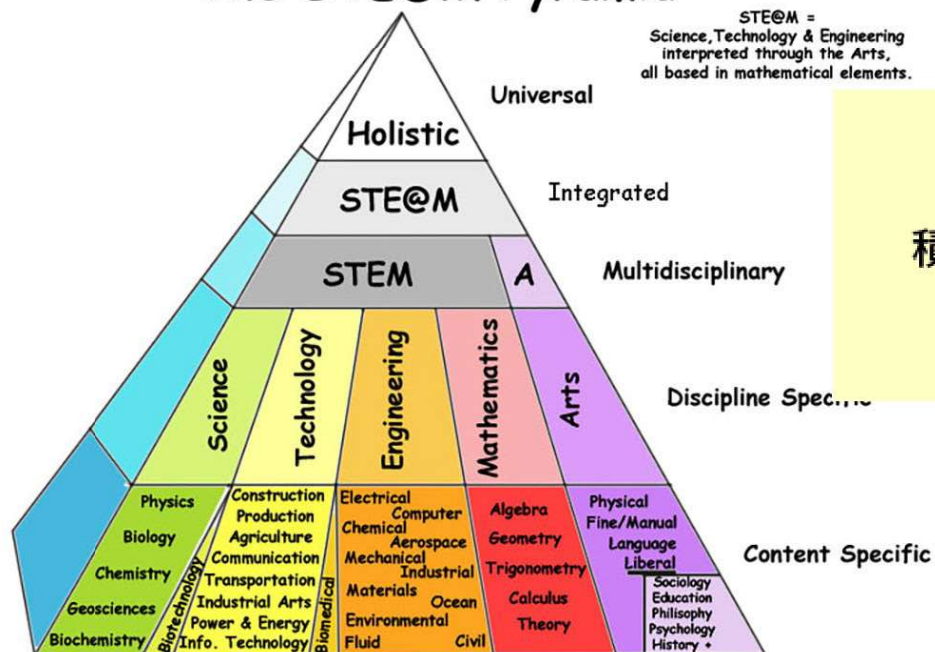
【学校現場と連携するために知っておきたいこと】

探究的な学習における児童の学習の姿

出典：文科省学習指導要領



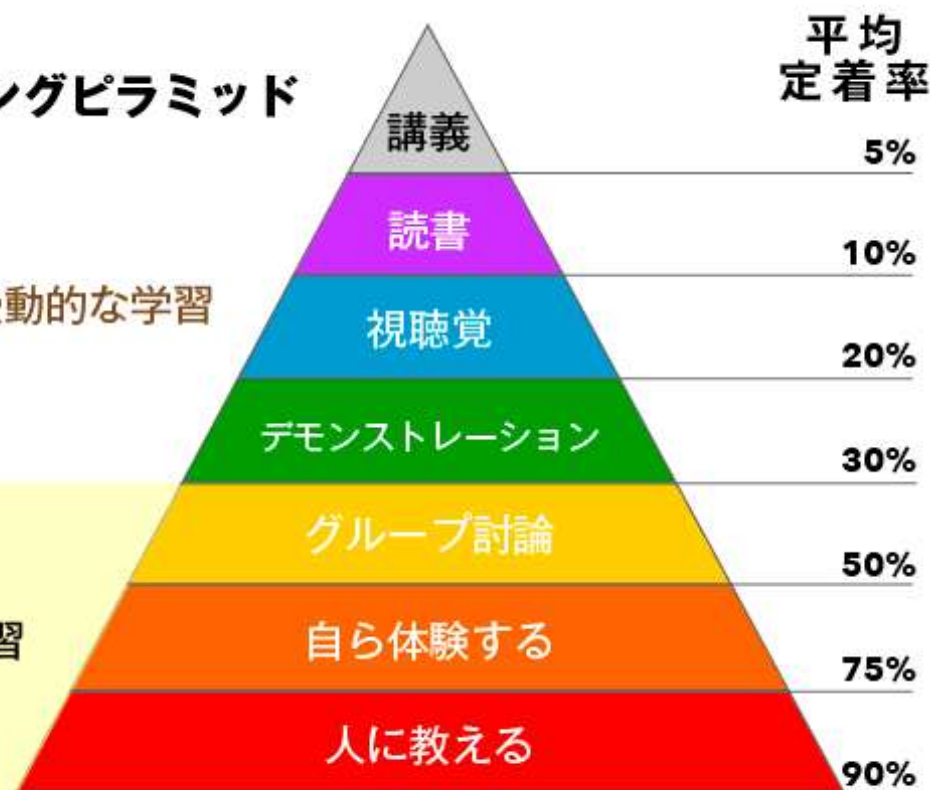
The STE@M Pyramid



ラーニングピラミッド

従来の受動的な学習

積極的な学習



出典：U.S. National Training Laboratories

【聴こえてきた、連携のための兆し】

「森林環境教育」の魅力を片思いで伝える教材ではなく、
学校教育のカリキュラムに沿った「森林環境教育」の提案

学校現場経験や学校側の現況を知っている（知ろうとしてくれている）外部人材は、話も進みやすく、相談しやすい。

「読んでもらえれば伺いますよ」という指導者リストよりも、
「必要な人をつなぎますよ」というコーディネート・相談役が貴重

SDGsは、各教科の中でつなげていくよう指示がある。教材としては、
教科・学年から逆引きでSDGsもふまえた提案があるとありがたい。

コミュニティスクールの導入によって、
地域と学校が共に課題を共有し、解決に向けて協働する。

【聴こえてきた、連携のための兆し】

小学校3年生～5年生で「環境」をテーマに、総合的な学習の時間（20～60時間）を行う学校が多いので、1年半ばかり相談・連携していく

そして何よりも大切なことは、

イメージで話さず
しっかりと向き合って
対話すること

中学「
その中

実施するためには、

外教育を受けて、

中2で必ず「職業体験」をする。キャリアを考える年齢。だからこそ、「キャリア」の提案として、森林に関わる憧れの仕事を紹介することも良。

ご清聴ありがとうございました